

しかしながら、現在、様々な形で検討されている木材認証・ラベリング制度があくまでも自主的な取組であり、開発途上国を除けば、国が主導する制度でないことを考えれば、我が国でも林業・林産業界や消費者等による自発的な取組が求められている。さらに、業界団体等が我が国の森林経営や流通の実態等を国際会議の場等で発言し、我が国の実情等が反映された制度でなければ、我が国では適用することが困難であることなどを積極的に主張することも必要であると考えられる。

図書紹介

◎フタバガキ林の生態系—持続可能な管理に向けて— (Dipterocarp Forest Ecosystems—Towards Sustainable Management: Andreas SCHULTE & Dieter SCHÖNE (Eds.), xii+666 pp., World Scientific, 1996)

本書は、ドイツ技術協力事業団 (GTZ) と国立ムラワルマン大学林学部 (インドネシア国、東カリマンタン州、サマリダ市) との間で行われた共同プロジェクトの活動の一つとして作られた。ただし論文のもととなった調査・研究の場所は必ずしもインドネシアのみに限られていない。内容は、1. Factors of dipterocarp forest ecology, 2. Towards sustainable management…Forest regulation, 3. Towards sustainable management…Silviculture, community and agroforestry, 4. Rehabilitation and reforestation of dipterocarp forest ecosystems, 5. Utilization potential of dipterocarp forest ecosystems…Major and minor forest products の5章に分かれており、論文数は28編にのぼる。

わが国からは森林総合研究所の太田誠一氏がムラワルマン大学の SYARIF 氏と共著で寄稿しているが、両氏とも「熱帯降雨林研究プロジェクト」(JICA) で研究を続けてきた人たちである。私がとくに興味をもって読んだのは第1章に収められたアリとマカランガ属植物との関係を論じたもので、著者はマイナスのイメージで見られがちなマカランガ属植物の有用性を積極的に主張している。ともかく、現在フタバガキ林をめぐる行われつつある研究を概観するには適当な書物といえよう。なお本書の現地価格は邦貨にして1,800円前後である。

(小久保醇)